

【2024年度 FD・SD委員会 事業報告】

委員長校	甲南大学
副委員長校	神戸市看護大学
委員校 (全:25校)	芦屋大学、関西国際大学、関西学院大学、関西学院短期大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、神戸親和大学、神戸常盤大学、神戸薬科大学、顕栄短期大学、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、宝塚医療大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫教育大学、兵庫県立大学、流通科学大学

中長期計画Ⅱ期の取組課題/達成目標/活動指標	
課題	課題⑥大学教職員の研修機会の提供と交流の促進
取組1	加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開
達成目標	各年セミナー5件以上
活動指標	参加者数100名以上/年
取組2	<FD・SD情報交換会、セミナー等の開催> 大学教育等に関する講演会等の開催
達成目標	各年参加者数50名以上
活動指標	開催数:3回以上/年

目的

大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「3. 県内大学の教育・研究の質を高める多元的学びの提供」の推進に向けて、以下の取組課題について、事業推進を行う。

【取組課題⑥】大学教職員の研修機会の提供と交流の促進  
 教職員の資質を向上させることを目的とした研修の機会を継続的に提供する。県下の大学等高等教育機関の関係者に研修交流機会を提供することにより、相互の立場で具体的な施策に結びつく議論が行われる、関連な意見交換の場を創出する。  
 以上の体制の構築並びに、必要な取り組みは本委員会にて実施する。

課題⑥大学教職員の研修機会の提供と交流の促進			
予算額	取組1	加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開	0円
	取組2	FD・SD情報交換会、セミナー等の開催	500,000円

期待される効果
大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校教職員の資質向上に寄与し、加盟校の担当者間の情報交換・交流や加盟校間での人材交流を促進する場が提供できる。

【2024年度 FD・SD委員会 事業報告(⑥取組1)】

課題⑥	大学教職員の研修機会の提供と交流の促進
達成目標	大学間で研修プログラムを共有することで、多様な教職員の学びと交流の場を提供する。
課題を解決する取組概要	加盟校間でのFD・SDセミナーの公開
活動指標	参加者数100名以上/年

計画(4月記載)	自己評価(12月記載)	報告(3月記載)
<p>1. 情報収集 Webフォームにて加盟校のFD・SDセミナー(学外公開可のもの)の情報収集を行う。</p> <p>2. 情報提供 加盟校のFD・SDセミナーの情報について、大学コンソーシアムひょうご神戸よりメール周知ならびにホームページ上での公開等により情報共有を行う。</p> <p>3. 定期的な協力依頼 半年に1回程度、加盟校へのFD・SDセミナーの情報提供依頼を実施するなど、適宜、本取り組みへの理解と協力を求める。</p> <p>【参考】2023年度の情報提供テーマ例 「Chat GPT 等生成 AI の業務での利用について」 「大学の授業と著作権について」 「大学入学者選抜の過去・現在・未来」</p>	<p>(活動内容) 「加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開」 10校9件のFD・SDセミナーが、大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校の教職員に公開された。大学間で研修プログラムを共有することで、多様な教職員の学びと交流の場を提供した。開放校より報告のあった参加者数は計758名であった。</p> <p>1. 情報収集 「加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開」について、Webフォームによる情報共有の仕組みを活用して、通年を通して、各校から学外公開可のFD・SDセミナーの情報提供を受け付けた。</p> <p>2. 情報提供 公開された加盟校のFD・SDセミナーの情報について、大学コンソーシアムひょうご神戸より、ホームページ上での公開ならびにメール周知等により情報提供を行った。</p> <p>3. 定期的な協力依頼 加盟校へのFD・SDセミナーの情報提供依頼を実施した。第1回FD・SD委員会(2024年5月7日)、依頼メールの配信(2024年5月10日)、第3回FD・SD委員会(2024年11月21日)、依頼メールの配信(2024年11月25日)</p> <p>(自己評価) 加盟校によるFD・SDセミナーの公開については、FD・SD委員会ならびに、コンソ加盟校に向けて、広く周知されている。2024年度は当初計画の活動指標(参加者数100人以上)を達成し、達成目標である「多様な教職員の学びと交流の場」を提供できている。各加盟校が大学間で連携・協力しながら、教職員の資質を向上させる研修と交流の機会を提供する取組として有益であり、継続すべきであると考えている。</p>	<p>(活動内容) 「加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開」 12校15件のFD・SDセミナーが、大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校の教職員に公開された。大学間で研修プログラムを共有することで、多様な教職員の学びと交流の場を提供した。開放校より報告のあった参加者数は計1400名であった。</p> <p>1. 情報収集 「加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開」について、Webフォームによる情報共有の仕組みを活用して、通年を通して、各校から学外公開可のFD・SDセミナーの情報提供を受け付けた。</p> <p>2. 情報提供 公開された加盟校のFD・SDセミナーの情報について、大学コンソーシアムひょうご神戸より、ホームページ上での公開ならびにメール周知等により情報提供を行った。</p> <p>3. 定期的な協力依頼 加盟校へのFD・SDセミナーの情報提供依頼を実施した。第1回FD・SD委員会(2024年5月7日)、依頼メールの配信(2024年5月10日)、第3回FD・SD委員会(2024年11月21日)、依頼メールの配信(2024年11月25日)</p> <p>(自己評価) 加盟校によるFD・SDセミナーの公開については、FD・SD委員会ならびに、コンソ加盟校に向けて、広く周知されている。2024年度は当初計画の活動指標(参加者数100人以上)を達成し、達成目標である「多様な教職員の学びと交流の場」を提供できている。各加盟校が大学間で連携・協力しながら、教職員の資質を向上させる研修と交流の機会を提供する取組として有益であり、継続すべきであると考えている。</p>
達成目標に対する実績	10校9件のFD・SDセミナーを公開	12校15件のFD・SDセミナーを公開
活動指標に対する実績	758人	1400人
自己評価基準：対到達目標 ※	4	—
自己評価基準：対継続性 ※	4	—

事業収支				
収入	支出	収支	支出	収支
0円	0円	0円	0円	0円
理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)				

加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開について、コンソーシアム内で情報共有の仕組みを構築し、通年を通して加盟校教職員の受講機会を提供し、教職員の資質向上に寄与できている点は評価できる。今後も継続的に加盟校のニーズを踏まえたFD・SDへの取組を進めていきたい。

<p>※ 自己評価基準：対到達目標</p> <p>4：当初計画を上回って達成 3：当初計画を達成 2：当初計画をやや下回った 1：当初計画を下回った</p>	<p>※ 自己評価基準：対継続性</p> <p>4：本プログラムは継続すべき 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要 1：本プログラムは中止すべき</p>
--	---

【2024年度 FD・SD委員会 事業報告(⑥取組2-1)】

課題⑥	大学教職員の研修機会の提供と交流の促進
達成目標	大学教育が直面している喫緊の課題に関する情報を共有することにより、高等教育改革推進に関する教職員の意欲を高める。
課題を解決する取組概要	加盟校教職員を対象とした大学教育等に関する講演会等の開催
活動指標	開催数1回以上/年

計画(4月記載)	自己評価(12月記載)	報告(3月記載)
<p>1. 大学教育等に関する講演会等の開催 ・テーマ 加盟校の意向を調査したうえで決定</p> <p>昨年度実施したアンケートにおいては、DXや(生成系)AIのテーマに関するニーズが多かったため、DX、AI関連を中心にテーマを検討する。 また、FD・SDの共通化の一端として、講演会等のオンデマンド化を講師が許可する範囲内にて行い、後日、加盟校教職員が”いつでも・どこでも・だれでも”参加可能な仕組みを検討する。</p> <p>2. FD・SDの共通化への取り組み 昨年度は事前調査として、「共同研修」を行うことで効果が期待できそうなテーマやアイデアのヒアリングを行い、内部質保証、IRに関する回答が多く、若手職員の合同勉強会による人的ネットワークの構築を求める回答もあった。 今年度は詳細テーマ、実施方法・時期などを適宜加盟校の意向を調査しつつ、最初の取り組み方針を固める。</p>	<p>(活動内容) 1. 大学教育等に関する講演会等の開催 FD・SD委員校に生成AIに関するアンケート(2024年5月24日～6月4日)を実施し、内容検討の上、開催した。</p> <p>【名称】大学における生成AI活用について考える 【日時】2024年9月4日(水)14:00～17:00 【場所】甲南大学岡本キャンパス5号館 524教室(オンライン併用) 【参加者】総計148名 (加盟校:16校61名、非加盟校:81名、企業5社6名) 【内容・講師等】 ■開会挨拶 大学コンソーシアムひょうご神戸FD・SD委員会委員長(甲南大学 副学長 FD委員会委員長)高 龍秀 ■第1部:基調講演 講演①「AIが急激に進化する時代に大学はどのように向き合うか？」 講師:関西学院大学 副学長/情報化推進機構 機構長/工学部情報工学課程 教授 巴波 弘佳 講演②「大学業務の観点から生成AI利用を考える」 講師:九州大学IR室 学術推進専門員 森木 銀河 ■第2部:質疑応答 ■第3部:情報交換会(対面会場のみ)</p> <p>2. FD・SDの共通化への取り組み (1)2024年度の大学コンソーシアムひょうご神戸FD・SD委員会主催セミナーにおいて、講師が許可する範囲内にてオンデマンド配信を行う計画を進めている。 (2)「FD・SD共通化施策案の意向調査」の実施 【期間】2024年10月31日～11月11日 【回答】25校</p> <p>(自己評価) 活動指標(開催数1回以上)を実施しており、本取組は当初計画通りに進んでいる。達成目標についても、大学教育が直面している喫緊の課題を教職員のニーズをもとに取り上げ、交流する機会を創出する講演会やFD・SDの共通化への施策は、高等教育改革推進に関する教職員の意欲を高めることに寄与するため、本取組は継続すべきと考える。</p>	<p>(活動内容) 1. 大学教育等に関する講演会等の開催 FD・SD委員校に生成AIに関するアンケート(2024年5月24日～6月4日)を実施し、内容検討の上、開催した。</p> <p>【名称】大学における生成AI活用について考える 【日時】2024年9月4日(水)14:00～17:00 【場所】甲南大学岡本キャンパス5号館 524教室(オンライン併用) 【参加者】総計148名 (加盟校:16校61名、非加盟校:81名、企業5社6名) 【内容・講師等】 ■開会挨拶 大学コンソーシアムひょうご神戸FD・SD委員会委員長(甲南大学 副学長 FD委員会委員長)高 龍秀 ■第1部:基調講演 講演①「AIが急激に進化する時代に大学はどのように向き合うか？」 講師:関西学院大学 副学長/情報化推進機構 機構長/工学部情報工学課程 教授 巴波 弘佳 講演②「大学業務の観点から生成AI利用を考える」 講師:九州大学IR室 学術推進専門員 森木 銀河 ■第2部:質疑応答 ■第3部:情報交換会(対面会場のみ)</p> <p>2. FD・SDの共通化への取り組み (1)2024年度の大学コンソーシアムひょうご神戸FD・SD委員会主催セミナーにおいて、講師が許可する範囲内にてオンデマンド配信を行った。 (2)「FD・SD共通化施策案の意向調査」の実施 【第1回】2024年10月31日～11月11日・25校回答 【第2回】2025年1月14日～1月21日・13校回答</p> <p>(報告) 活動指標(開催数1回以上)を実施しており、本取組は当初計画通りに進めることができた。達成目標についても、大学教育が直面している喫緊の課題を教職員のニーズをもとに取り上げ、交流する機会を創出する講演会やFD・SDの共通化への施策は、高等教育改革推進に関する教職員の意欲を高めることに寄与するため、本取組は継続すべきと考える。</p>
達成目標に対する実績	事後アンケート(回収率:加盟校44.2%)「貴学の生成AIの活用法を考える上で有益なものでしたか」の設問に「有益であった(55.6%)」「ある程度有益であった(44.4%)」との回答(計100%)があり、加盟校が高等教育改革を推進するきっかけになったと考える。	事後アンケート(回収率:加盟校44.2%)「貴学の生成AIの活用法を考える上で有益なものでしたか」の設問に「有益であった(55.6%)」「ある程度有益であった(44.4%)」との回答(計100%)があり、加盟校が高等教育改革を推進するきっかけになったと考える。
活動指標に対する実績	1回	1回
自己評価基準:対到達目標 ※	3	—
自己評価基準:対継続性 ※	4	—

事業収支(※取組2-1、2-2の合計)				
収入	支出	収支	支出	収支
500,000円	196,239円	303,761円	403,929円	96,071円

理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)

加盟校に共通する大学教育が直面する喫緊の課題について、加盟校のニーズを踏まえたセミナーに取り組んでいることは評価できる。FD・SD共通化への施策の検討を含めて、大学が単独で行うよりもコンソーシアムで実施する意義がある活動を推進いただきたい。

※ 自己評価基準:対到達目標	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った	※ 自己評価基準:対継続性	4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき
-------------------	--	------------------	--

【2024年度 FD・SD委員会 事業報告(⑥取組2-2)】

課題⑥	大学教職員の研修機会の提供と交流の促進		
達成目標	事業終了時、受講者アンケート調査において、「自学の内部質保証活動にとって有益であった」との回答が平均70%以上であることを目指す。		
課題を解決する取組概要	加盟校教職員を対象とした内部質保証システム等に関するFD・SDセミナー等の開催		
活動指標	FD・SDセミナー等開催数2回以上/年		
	計画(4月記載)	自己評価(12月記載)	報告(3月記載)
	<p>1. 内部質保証システム等に関するFD・SDセミナー等の開催</p> <p>・テーマ① 内部質保証の実質化関連</p> <p>現在、多くの大学は、既に3巡目の認証評価を終え、引き続き内部質保証に取り組んでいると思われるが、その実質化は必ずしも十分とはいえないことも多く、内部質保証を機能させ、継続的に改善を図る必要がある。また、内部質保証のあり方に関して、大学関係者の話を聞く機会が多いが、評価機関の話を聞く機会は、自大学の受審時以外には、ほとんどない。</p> <p>よって複数の評価機関から、「3巡目の評価結果を基に、評価機関の考える内部質保証の実質化のあり方と課題、優良事例」、「4巡目における内部質保証のあり方の方向性」等を講演やパネルディスカッションを通して学ぶ機会を提供する。</p> <p>※実施予定時期:2025年1月～3月</p> <p>・テーマ② データの可視化などIRスキル関連</p> <p>IRにおいて、データ集約の後のデータ分析方法やIR業務全体における効率化など、加盟校ごとに状況は様々でありながらも、課題に感じられている部分が多々あることが想定される。</p> <p>そこで、特にIR業務担当教職員向けに、IR業務において業務効率化に資するような実務研修を実施し、加盟校教職員の学びの機会とするとともに、加盟校教職員間での情報交換の促進を図ることとする。</p> <p>※実施予定時期:2024年6月～9月</p> <p>※上記2テーマともに、FD・SDの共通化の一端として、講演会等のオンデマンド化を講師が許可する範囲内にて行い、後日、加盟校教職員が”いつでも・どこでも・だれでも”参加可能な仕組みを検討する。</p>	<p>(活動内容)</p> <p>1. 内部質保証システム等に関するFD・SDセミナー等の開催</p> <p>・テーマ① 【名称】内部質保証の実質化を考える(案) 【日時】2025年2月12日(予定) 【会場】オンライン</p> <p>・テーマ② 【名称】IRの基礎をダイジェストで学ぶ! 【日時】2024年6月25日(火)14:30～16:30 【場所】Zoom 【講師】日本インスティテューショナル・リサーチ協会(JAIR)会長/東京工業大学 企画本部・情報活用IR室・業務改革推進 教授 森雅生 【参加者】総計214名(加盟校:16校43名、非加盟校:110校161名、企業:4社5名、団体:5団体5名) 【内容】高等教育の質の向上において、IRが果たす役割と重要性、IRの業務プロセスの全体像についての講演を開催。質疑応答では、IR活動において学内でグッドプラクティスを作って理解者を増やし、浸透させることの重要性などについても意見交換がなされた。</p> <p>(自己評価) 活動指標であるFD・SDセミナー等開催数2回以上の日程も確定しており、本取組は計画通りに進んでいる。開催したセミナーについては、事後アンケート回答において加盟校の100%が「自学の内部質保証活動にとって有益であった」との回答があり、当初の達成目標70%以上を達成している。高等教育改革推進に関する教職員の意欲を高める効果が期待されることより、本取組は継続すべきと考える。</p>	<p>(活動内容)</p> <p>1. 内部質保証システム等に関するFD・SDセミナー等の開催</p> <p>・テーマ① 【名称】内部質保証の実質化を考える 【日時】2025年2月12日(水) 13:00～15:30 【会場】オンライン 【講師】講師 ・独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構 研究開発部 教授 島田敏行/公益財団法人 大学基準協会 常務理事・事務局長 工藤潤/公益財団法人 日本高等教育評価機構 常務理事・事務局長 伊藤敏弘/一般財団法人 大学教育質保証・評価センター事務局長 中田晃/(ファシリテーター)神戸大学 戦略企画室 准教授 高田英一 【参加者】総計296名(加盟校:16校73名、非加盟校:校191名、企業:3社11名、7団体19名、一般2名) 【内容】多くの大学が3巡目の認証評価の受審を終える中、内部質保証の実質化を十分に実現したとはいえない状況もあると考えられる。加盟校が受審する4つの認証評価機関から、内部質保証の実質化のあり方、課題・優良事例、4巡目の方向性に関する講演を開催。あわせて、内部質保証の同等性に関するパネルディスカッション、評価機関との意見交換の機会を設けた。</p> <p>・テーマ② 【名称】IRの基礎をダイジェストで学ぶ! 【日時】2024年6月25日(火)14:30～16:30 【場所】Zoom 【講師】左欄(自己評価・12月記載)と同じ</p> <p>(報告)活動指標であるFD・SDセミナー等開催数2回以上を実施し、活動指標・達成目標とも達成した。事後アンケート回答において、加盟校から「自学の内部質保証活動にとって有益であった」との回答が、テーマ①・テーマ②ともに100%であり、当初の達成目標70%以上を達成している。高等教育改革推進に関する教職員の意欲を高める効果が期待されることより、本取組は継続すべきと考える。</p>
達成目標に対する実績	6月25日開催セミナー事後アンケート(回収率:加盟校76.7%)「貴学の内部質保証活動にとって有益なものでしたか」の設問に「有益であった(48.5%)」「ある程度有益であった(51.5%)」との回答(計100%)	加盟校に対する6月25日・2月12日開催セミナー事後アンケートにおいて「貴学の内部質保証活動にとって有益なものでしたか」の設問に「有益であった」「ある程度有益であった」との回答計100%	
活動指標に対する実績	2回(実施予定含む)	2回	
自己評価基準:対到達目標 ※	4	—	
自己評価基準:対継続性 ※	4	—	

事業収支(※取組2-1、2-2の合計)				
収入	支出	収支	支出	収支
500,000円	196,239円	303,761円	403,929円	96,071円

理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)

近年、重視されている認証評価・IRなどについて、体制作りから実質化まで苦慮されている加盟校の現状を踏まえたセミナーを継続的に実施できた点は評価できる。今後も加盟校のニーズを柔軟にとらえ、時宜にあった取組を検討いただきたい。

※ 自己評価基準:対到達目標	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った	※ 自己評価基準:対継続性	4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき
-------------------	--	------------------	--

2024年度 FD・SD委員会 事業決算

(単位:円)

	予算額	決算額	各プログラム 予算・決算						委員会 予算・決算				
			取組1			取組2							
			加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開			FD・SD情報交換会、セミナー等の開催			内訳	予算額	決算額		
			内訳	予算額	決算額	内訳	予算額	決算額					
収入	会費収入	600,000	436,934		0	0		500,000	403,929		100,000	33,005	
	助成事業収入	0	0										
	受託事業収入	0	0										
	プログラム収入	0	0										
	雑収入	0	0										
	戻入金	0	0										
	計	600,000	436,934		0	0		500,000	403,929		100,000	33,005	
支出	会議費	110,000	27,040				懇親会	100,000	27,040	会議費	10,000		
	旅費交通費	90,000	33,680				講師等交通費	80,000	33,680	旅費交通費	10,000		
	通信運搬費	10,000	0							通信運搬費	10,000		
	消耗品費	30,000	0				消耗品費	20,000	0	消耗品費	10,000		
	新聞図書費	0	0										
	印刷製本費	0	26,456				資料コピー代	0	26,456				
	光熱水料費	0	0										
	賃借料	105,000	0				会場費等	80,000	0	賃借料	25,000		
	保険料	0	0										
	謝金	220,000	249,000				講師等謝金	220,000	249,000				
	租税公課	0	0										
	支払手数料	5,000	5,005								振込手数料	5,000	5,005
	諸会費	0	0										
	委託費	30,000	88,000				委託費	0	60,000	各プログラムHPIに係る 予備費	30,000	28,000	
	人件費	0	7,753				学生アルバイト	0	7,753				
	接待交際費	0	0										
	支払支援金	0	0										
雑費	0	0											
計	600,000	436,934		0	0		500,000	403,929		100,000	33,005		

収入-支出	163,066
-------	---------